

国内建設事業における PM のあり方とヴィジョンの提言

— 研究企画案の紹介 —

建設 PM 研究小委員会

小委員長 ○高崎英邦(日本大学)

副小委員長 大崎康生((株)フジタ)

by Hidekuni TAKASAKI, Yasuo OSAKI

標題の研究テーマが、建設マネジメント委員会の第一種に採択されたのは平成 11 年 6 月である。第 1 種研究テーマは委員会が重点的に推進を要請した研究課題と定義されており、2 年間の研究期間中逐次中間報告する責務を持つ。しかしこの報告書を執筆する段階では、着手したばかりのこともあって未だ実質的な討論および何らかの結論を得るに至っていない。したがってここでは、研究企画案を中心に述べることにし、またその中で複数の有力な意見があるものについてはそのまま提示することとした。これは、外部の多くの意見を収集して今後の研究活動の参考に供していきたいことを旨としている。

以下、PM 研究の背景と目的として、何のための誰のための PM か、調査研究の背景と目的について述べる。これは小委員会全員の目的意識の共通化・共有化を図るためのものである。次いで、研究企画と多少の討議結果を付加して、研究の基本スタンス、当面の調査研究課題と手順について触れている。

[キーワード] プロジェクトマネジメント、PM ビジョン、社会システム、

はじめに

- ◆ 第一種研究テーマ
 - 提案・申請
 - 委員会が重点的に推進要請
 - 1999.6より2年間
- ◆ 中間報告
 - 研究企画案を紹介
- ◆ 議論、提案を要望
 - 今後の研究活動に反映

小委員会メンバー

計16名 : 官系 2
民系 建設会社 6
コンサル 6
エンジニア 1
学系 1

赤坂幸雄(前田建設工業(株))、伊勢谷泰正(日揮(株))
磯部寛也((株)建設技術研究所)、大崎康生(フジタ)
太田順((株)オビエレクトロニクス)
川畑豊(パナソニックシステムズ(株))、京野忠(清水建設(株))
齊藤隆(鹿島)、鈴木昭信((財)先端建設技術センター)
高崎英邦(日本大学)、林寿夫((株)協和コンサル)
前川行正(日本技術開発(株))、三谷勝明((株)熊谷組)
村上清基(鹿島建設(株))、安原達(建設者土木研究所)
吉田典男(日本正倉(株))

研究発意の原点

- 何のための誰のためのPMか
 - 目的、対象、効果は
- 欧米型モダンPMシステムの直導入は定着するか
 - ISO、BS、ANSI
 - TQC、VE、ISOの経験
- 市場主義、競争原理の徹底は何をもたらすか
 - 各ステークホルダーは満足するか
- PMはテクノロジーであり文化では
 - 管理用ツールは楽々
 - が、社会・企業文化は異なる
- 日本型(的)を基本に第三の道は
 - 欧米型に合わせれるか、そして勝てるか
 - 日本型に良いところもある

調査研究の目的

PMの国際規格は、PMツールの使用も含めてそのままが国の建設事業に適用することは制度面、手法面、実践面において困難。

当研究では、わが国の建設事業の実態に即したPM手法の確立、PM導入のガイドライン、PMヴィジョンを研究し提言する。

研究の基本スタンス

- ① 調査・分類・整理
R&D、創造・提言
- ② 日本的経営管理モデル
欧米型モダンPM
日本に適したPMモデル
- ③ 概念モデル提案
ヴィジョン、あり方

何のための誰のためのPMか

PMの定義

JPMF会則:

独自の成果物またはサービスを創出するための有期活動であるプロジェクトを、プロジェクト関係者の要求事項や期待を充足しながら統合的に計画・運営・管理するための組織体制・知識・手法・ツールの体系。

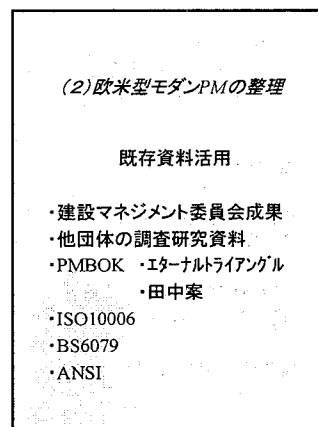
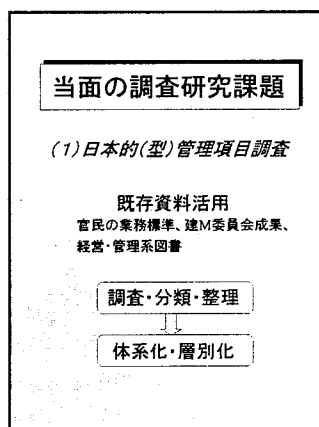
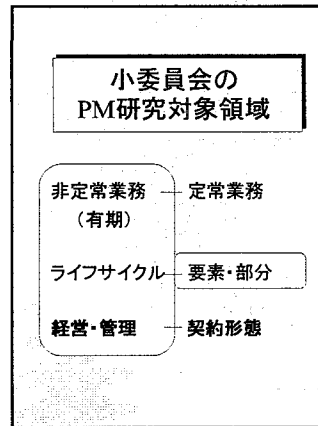
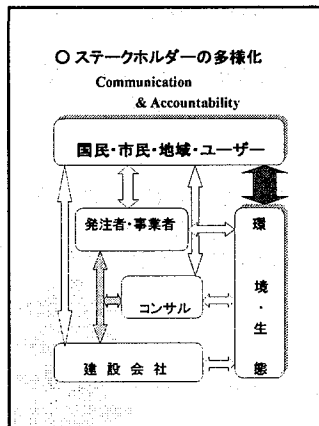
Project Management

経営: プロジェクトに必要な判断と決定を行い、新しい価値に目を向ける

and

管理: 諸活動を間違い無く進行させ、確実に成果に結びつける

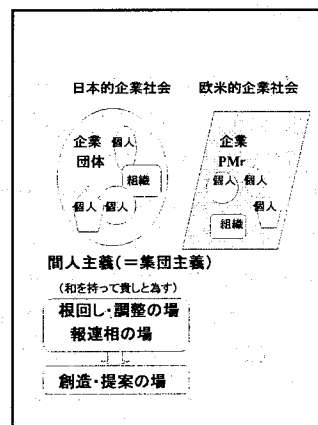
- 限られた経営資源で効果の高い事業を効率的に推進
- 部分最適から全体最適へ
- - 土木の論理
 - 事業者、企業の論理
 - 技術者の論理
- 社会的論理
 - 国民・市民・地域の論理
 - 生態・環境系の論理
- 良質・低廉な社会資本
- 情報公開・説明責任



(3) 日・欧米型
企業社会システムの整理

	日本的	欧米的
モデル	間人主義モデル (Contextualism)	個人主義モデル (Individualism)
システム 形態	関係体 (relatum)	個別体 (individual)
属性	相互依存主義 相互信頼主義 対人関係本質視	自己中心主義 自己依拠主義 対人関係手段視

(南口編著：日本社会とは何か、より整理)



日本大企業の
組織的観点からの課題
(マッキンゼー社による)

7 S 課題

STRATEGY 成熟期対応への抜本策の不在
共通認識の欠如
STRUCTURE 機能別で外資への反応遅い
無制限な膨大化と
基本意思の欠如
SYSTEM 120%主義による過剰な重役決定
連帯責任の無責任
STAFF 純血主義による馴れ合い
優秀人材が成長層に少ない
SKILL 新規分野の経験者皆無
異想力のある人材欠如
STYLE 役員と部下との関係がフォーマル
寡平等主義
SHARED VALUE 小さな全社主義
リスクがあることはやらない

(4)建設PMモデルの構築

基本モデル・ビジョン、枠組み
概念、あり方

(5)建設PMモデルの構築

各論モデル・解説、詳細

おわりに

◆ 討議テーマ

- 何のための誰のためのPMか
(PMの目的・効果は)
- 建設PM研究の対象領域は
(建設PMの定義は)
- 調査研究の課題と進め方は

主要参考文献

- 建設PM研究小委員会：国内建設事業におけるPMのあり方とヴィジョンの提言、第1回建設マネジメント委員会資料、土木学会、1999年6月4日
- 建設省大臣官房技術調査室：公共事業へのプロジェクトマネジメント(PM)手法導入に関するビジョン、建設省記者発表資料、平成11年6月21日
- JPMF：日本プロジェクトマネジメント・フォーラム会則、1998年12月9日
- PMI Standards Committee：A Guide to the Project Management Body of Knowledge、Project Management Institute、1996 Edition
- 大崎康生、齋藤隆、柴田秀昭、高崎英邦：日・欧米型プロジェクトマネジメントの特性に関する一考察、建設マネジメント研究論文集、土木学会建設マネジメント委員会、PP.39～48、1998.12
- 濱口恵俊編著：日本社会とは何か、日本放送出版協会、1998年6月
- 濱口恵俊編著：日本型モデルとは何か、新曜社、1993年4月